

## 事業終了報告書

令和 1 年 11 月 24 日  
特定非営利活動法人  
環境リサイクル肉牛協議会

1. 事業名称：16回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2019  
テーマ：「スマート農業による肉牛生産の展望」

### 2. 事業目的：

わが国の肉牛生産は、輸入飼料価格の高止まり、素牛および生産資材価格の高騰などの厳しい状況にさらされ、肥育牛出荷頭数の減少が続いています。このような国産牛肉供給量の減少を反映し、枝肉価格は上昇していますが、それを牽引しているのは外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要の増大や堅調な輸出需要などであり、需要の3割を占める家計消費は減少傾向が続いています。

近年、農業分野の後継者不在による高齢化は肉牛農家でも進行しており、深刻な労働力不足になっています。さらに、経営内で培われてきた技術を継承する人材も減り続けています。

スマート農業は、「ロボット技術や ICT（情報通信技術）等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業」と定義されており、その将来像として①省力・大規模生産を実現、②作物の能力を最大限に発揮、③きつい作業、危険な作業から解放、④誰もが取り組みやすい農業を実現、⑤消費者・実需者に安心と信頼を提供などが上げられています。これらは、当協議会が目標とする資源循環型肉牛生産を実現する上でも重要な技術と考えられます。しかし、農機メーカーや IT 企業等による技術開発が急速に進展しているため、現状の技術でどのようなことが可能なのかについては、情報が不足しています。

そこで、本シンポジウムでは、スマート農業の観点から現行の牛肉生産システムについて検討し、議論を深め、将来の牛肉生産の一助としたいと考えます。本シンポジウムは毎年、環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会および北海道短角牛振興協議会が共催してありますが、シンポジウム開催 16 回目に当たり、スマート農業による肉牛生産の展望について、生産者、消費者、流通業界および大学・研究機関など多角的立場からの意見交換を行い、資源循環型肉牛生産の意義浸透を図りたいと思います。

### 3. 開催団体及び後援団体：

共 催：環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、帯広市

後 援：帯広畜産大学、北海道十勝総合振興局、芽室町農業協同組合、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、NHK 帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

4. 開催日時/開催場所：

日 時：令和 1 年 11 月 8 日(木) 13:00-17:00

会 場：とがちプラザ（帯広市）2 階 視聴覚室

5. 参加費： シンポジウム・現地検討会 無料  
意見交換会 一般 4,000 円 学生 2,000 円

6. シンポジウムの内容： 講演要旨集参照

1) 基調講演 「農業の持続的な発展とスマート農業」

農研機構 北海道農業研究センター

酪農研究領域長 大下友子氏

2) 話題提供 1. 「有機畜産と ICT 活用 実践例」

有機酪農研究会 会長 石川賢一氏

話題提供 2. 「IoT 技術の肉牛生産への活用事例」

(株)デザミス北海道営業所 所長 佐藤志津哉氏

話題提供 3. 「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」

司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者

3) パネルディスカッション

司会 大下友子領域長 パネラー：講演者、消費者代表

4) 意見交換会 e-びーふ 試食会（18:00～）宮崎ホテル

食味試験（17:30～18:00）帯広畜産大学 口田研究室主催

5) 現地検討会：11 月 8 日(金) 午前 8:30 発(希望者のみ)

音更町長流枝 北の牧場舎 e-びーふ木野畜舎

7. 参加者数：

1) シンポジウム 103 名道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、通業界関係者、消費者団体関係者、大学・試験研究機関関係者

2) 意見交換会 52 名

3) 現地検討会 18 名

8. 実行委員：左 久、内藤順介、嶋村義文、榛澤保彦、花房俊一、  
佐藤幸信、青山次郎、奈良岡善之、西道由紀子  
事務局： 特定非営利活動法人 環境リサイクル肉牛協議会 事務局

9. 事業総括：

- 1) シンポジウム：基調講演では畜産業の“持続性”についての意味を考えるとともに、今年度から開始されたスマート農業実証事業の内容について紹介し、農業や畜産業の持続的発展におけるスマート農業技術の役割について論説が展開されました。また、話題提供として実際生産されている牧場や IOT 技術の肉牛生産の活用事例等が紹介されました。また午前中行われた北海道肉専用種枝肉共励会の格付が説明されました。これらの講演とパネルディスカッションを通じて、スマート農業による肉牛生産と今後の取り組みの重要性が明確にされました。
- 2) 試食会・意見交換会：e-びーふ(ホルスタイン未経産牛 35 ヶ月齢)と慣行肥育の交雑種のしゃぶしゃぶ料理でのブラインド試食会を行いました。結果、遜色なく食することができることが評価されました。
- 3) 現地検討会：音更町長流枝 北の牧場舎 e-びーふ木野畜舎を視察し意見交換を行いました。
- 4) 企画と今後の展開：  
本活動はわが国の牛肉生産についての生産・流通・消費の立場横断的意見交流の機会として本年度で 16 回目を迎えた。効果もあり、参加者数は 103 名参集しました。生産者、流通、消費者層、学生、普及・研究機関等多様で、この会のシンポジウムの必要性と資源循環型牛肉生産の意義を広く知らせたいという主催者の趣旨は理解されたと思われまます。

シンポジウム事務局：(特非) 環境リサイクル肉牛協議会 理事花房俊一  
シンポジウム申込み・問い合わせ先：  
(地独)道立総研機構 畜産試験場 西道由紀子

以上